

第30回 うつのみやこども賞だより

平成25年度 9回
2014年2月2日発行

市内5・6年生の選定委員さんたちが、月に4冊の本を読んで、年間で一番人気の高かった本に「うつのみやこども賞」を贈っています。

《今月選ばれた本》

『てのひら咲いた』

別司芳子／著（文研出版）

～読んだ本の感想より～



- 親子とは、友情とは、愛とはが読んでいて感じられた。
 - 最後の菜月のスピーチが力強く印象に残った。心境の変化が大きくある本だと思う。
 - 菜月と玲子先生がいい空気に包まれていく所が読んでいてとても良かった。
 - なみだなしではぜったいよめない。2回ぐらいかないのと感動したのでないてしまった。げんじつにもよくありそうでした。
 - 菜月とはや人が先生を通し成長する所が良かった。
- 心にしまいこんでいる人のかんじょうがとてもよくわかった。
●手のひら咲いたという表現がとても良かった。

『木曜日は曲がりくねった先にある』

長江優子／著（講談社）

- 読んでいるうちにタイトルの意味が分かってきて、お話にひきこまれる感じがしました。
- 感情移入して読める一冊だった。鉢物や共感覚など、いろいろ入っていて飽きずに読めた。カナトの共感覚は自分も欲しいなあと思った。
- カナトの不思議な感覚と一緒に感じようとしているミズキもすごかった。
- 宇都宮の話に思えた。大谷石だとか那須だとか。
- 私の一週間はなにいろなんだろうと思った。たぶん明るい色だとおもう。

『妖狐ピリカ・ムー』 那須田淳／著（理論社）

- 人間をうらんでいたから妖怪になったのに、人間にはいい人もいるとおもいはじめた心の変化がいいと思った。
- 妖怪と人間の恋なのになんて純情すぎなんだー！！と思った。
- ピリカは人間に対して愛を持っていてすごいと思った。
- 人間の弱いところをてきかくにあらわしている一さつ。
- 私も自分達の世界を見直そうと思った。

『ふたり』 福田隆浩／著（講談社）

- ふく面作家のしょうたいをさがす二人がよかった。
- 最初の方では想像していなかった意外な方向に進むのもおもしろかったです。
- ほかの作家さんにも覆面作家さんがいるかもしれないと興味を持ちました。
- バスで交わした約束は、守られると思った。